



PAS-SCT 看護学会第3回大会 開催報告

第3回大会を終えて

第3回大会 大会長 國府浩子

(熊本大学大学院生命科学研究部 教授)

PASセルフケアセラピー看護学会第3回大会は、2020年9月6日に「セルフケア支援の発展～事例がもたらす知の構築と介入型事例報告・事例研究」を大会テーマとして開催し、100名を超える多くの方々に参加していただきました。世界的な新型コロナウイルス感染拡大という状況の中、急遽オンライン開催となり、当日は台風の発生と多くの困難がありましたが、皆様方のご協力のおかげで無事開催できましたこと深く感謝いたします。オンデマンドではなくリアルタイムでの開催ということで活発な討論が繰り広げられ、全体の一体感を感じられる学会であったとの参加者からのお声もいただきました。地方の方々の参加が容易となり、オンライン開催のメリットも感じられる学会となりました。

プログラムは、本庄恵子先生の基調講演、小谷英文先生の教育講演、ケースカンファレンス、トレーニング検討委員会による大会企画、演題発表に加え、宇佐美しおり先生による新型コロナウイルス対応とセルフケア看護介入についてのご講演などで盛況のうちに終わりました。セルフケア能力を測る質問紙の開発と質問紙を活用としたセルフケア支援の取り組みを通して、改めて慢性疾患患者へのセルフケア支援について深く考える機会となりました。また、介入型事例報告をどうまとめていけるのか、事例研究が科学としてどのような手続きを踏むことが必要なか確認することができ、トレーニングの紹介や演題を通じて、展開の要となる「ケース・フォーミュレーション」について具体的に検討、共有、意見交換することができました。

このたびの新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、私たちの生活を一変させました。自分自身の身体や気持ち、生活を整えることの難しさを感じ、これまで当たり前に行っていた生活の変更を余儀なくされました。このような変化はセルフケアを改めて考えていく契機となったともいえます。患者の個別的な生活や価値観に目を向け、患者が自分らしい生活を送っていけるように支援することは看護の重要な機能です。本学会はこのセルフケアを実践的・学術的に発展させ体系化することを目的としています。今後とも皆様にセルフケアについて関心をお持ちいただき、セルフケアプログラムおよびPAS-SCTを発展させていただければと思います。

第3回大会基調講演の本庄恵子先生、教育講演の小谷英文先生、講演の宇佐美しおり先生、ケースカンファレンスを運営してくださいました先生方、学会トレーニング検討委員の先生方、大会にご参加いただきました皆様に心より感謝申し上げます。



PAS-SCT 看護学会トレーニング 精神科診断・薬物治療編 参加者の声

2020年 PAS-SCT 看護学会主催 第1回精神科診断・薬物治療トレーニングに参加して

小池真紀

(榊原記念病院)

看護師として臨床に出て4年が経過したころに、身体疾患により不適応が生じ、セルフケアが低下した患者さんと関わる機会が増えました。危機的な状況の中で、セルフケアが低下したことにより苦しんでおられる患者さんに対しての自分の関わり方はどうだったのだろうかと思ふことが多くなりました。根拠を持った看護を行いたいという気持ちが高まっている時に、PAS セルフケアセラピーに出会いました。もっと学びたい、実践の場で使えるようになりたいと思うようになり、トレーニングに参加。リエゾン領域の看護への関心が深まり、大学院へ進学し、精神看護専門看護師の道を昨年からはじめました。

以前から PAS セルフケアセラピー看護学会トレーニングに参加をさせていただいておりましたが、いつも参加者の皆さんが提示される事例と一緒に考えながら、とても奥深く、でも実際に自分がやるとなると難しいなあと感じておりました。今回、第1回精神科診断・薬物療法トレーニングに参加し、初めて自分の事例を検討させていただきました。自分が展開した総合アセスメント、ケースフォーミュレーション、ケアプランに対し、参加者の皆様から身体面な側面、精神面な側面など様々な角度からご意見をいただき、普段自分ではなかなか気が付くことが難しい、ものの捉え方の傾向や、癖を知るとともに、自分が患者さんに対してやれていた事や、もっとやれた可能性も検討することができ、ケースを深めるとともに、今後のケアの示唆を得ることができました。また、精神科医の大磯先生より PTSD の診断と治療、リエゾンにおける抑うつと不安の診断と薬物治療について講義をいただき、自分の事例とリンクさせながら理解を深めることができました。今後もトレーニングへの参加を継続し、臨床の場で苦しんでいる患者さんを1人でも助けていくことができるように、力をつけていきたいと思ひます。



PAS-SCT 看護学会 2020年トレーニング 第3回参加者の声

臨床実践を大切にしているすべての CNS におすすめのトレーニング

竹原 歩

(兵庫県立姫路循環器病センター看護部 精神看護専門看護師)

2020年は私の看護師人生でこれまでにない年となりました。新型コロナウイルス感染症に対応するため刻一刻と変化する臨床状況のなかで、CNSとして何をすべきなのかを考えることが日常でした。現時点での結論は、患者さん、ご家族、医療従事者それぞれに能動的に話を聴きに行くことだと思ひていますが、試行錯誤の毎日です。CNSとして話を聴きに行くときに用いるものは面接技術ですから、日々自分自身の面接技術の向上が求められていると感じています。

PAS セルフケアセラピー看護学会トレーニングの私の参加動機は、CNSとしての面接技術向上で

す。トレーニングの前に、そのとき最も気になっているケースをまとめる作業が課題としてあります。臨床で出会ったすべてのケースについて、精神状態をはじめとする体系的なアセスメント等の記録を書き留めておくべきなのですが、現実的にできていないことが多いので、最初の振り返り作業となっています。トレーニングが始まると、トレーナーの先生や参加者の方々の素晴らしい面接技術とケースの見立てを目の当たりにしますから、自信がなくなったり委縮してしまう気持ちが生まれたりすることは少なからずありますが、そういう感情との向き合い方も含めてトレーニングだと思っています。トレーニングが終わるころには、明日からの臨床実践に気持ちは向かっていますので、トレーナーの先生や参加者の方々にエンパワーされているのだと思います。

CNSの役割で仕事をさせていただく間は、継続的に学会トレーニングに参加させていただきたいと考えています。トレーニングの場を提供してくださっている学会関係者の先生方に、いつも感謝の気持ちでいます。臨床実践を大切にしているすべてのCNSにおすすめてです。

学会トレーニングに参加して

永井友里

(高知県高知市病院企業団立高知医療センター 小児看護専門看護師)

先日PASセルフケアセラピー看護学会トレーニングへ2回目となる参加をさせていただきました。参加する前は、自分が参加してもついていけるだろうかと不安を抱えておりましたが、CNSとして、少しでも自分の実践能力を磨きたい、感覚でケアを提供するのではなく、患者さんやご家族の状況や反応を正確に捉えケアに繋げるための手法を学びたいと思い参加致しました。

トレーニング1日目では、精神状態や自我機能、セルフケアに関する総合アセスメントの手法などを学ぶと共に、事例検討を通じてケースフォーミュレーションと具体的な介入について学びました。具体的な介入方法を学ぶ際、患者役と看護師役に分かれロールプレイをする機会があったのですが、その中で精神看護CNSとロールプレイをさせていただきました。ロールプレイでは、関わりにくさを持つ騒ぐ患者役をやろうと思って臨んだのですが、すっかり精神看護CNSの空気感に包まれるという体験をしました。専門家として自分の存在感で場を包むというのはこういう事かと、PASセルフケアセラピーで言われているグラウンドメトリックスの大切さを身をもって学びました。

トレーニング2日目では、様々な分野の方の事例で学ばせて頂くと共に、自分自身の事例を取り上げて頂く機会があり、小谷先生や宇佐美先生、他の参加者の方々からのご助言でケースフォーミュレーションが進み、実際のケアへの糸口を頂く事が出来ました。これまではアセスメントの手法を学び患者さんを捉える事にとどまっていた所から、今回トレーニングに参加したことで、PASセルフケアセラピーをより実践に活かすためにどのような視点で関わるのかその手法や視点を深く学べたと思っています。まだまだ未熟で実践に活かしきれない部分も多いですが、今後ケアに活かしていけるようこれからも学び続けたいと思っています。





トレーニングの感想と今後の抱負

前田 愛

(昭和大学附属烏山病院)

わたしは CNS の認定を受けてから、実践能力を訓練する機会がほしいと思っていました。そんな思いをもつなかで、今年度開催された福岡県精神看護専門看護師活動促進協議会が開催する教育講演で宇佐美先生のご講演を拝聴し、初めて PAS-SCT を知りました。院内でドロセア E オレムの看護理論に関するシリーズ研修を担当していることもあり、「セルフケア」の言葉に惹かれ、自信のない自分の実践に変化を起こしたいという気持ちでメモを取ったのを覚えています。それからすぐ、PAS-SCT のトレーニングをご紹介いただき、早速申し込みをいたしました。

トレーニング内容の素晴らしさは、これまで発行された Newsletter で先生方がおっしゃっている、まさにそのものです。わたしが最も感動したのは、トレーニング中の引き込まれるような場の空気でした。オンラインでもこのようなダイナミズムが起こるのだと体感し、大変感心いたしました。きつとこの背景には、セルフケア看護介入が高度な看護実践であり、それができる実践家をトレーニングしていることとされる宇佐美先生や小谷先生の熱意と、その熱意を必死に受けて取り組む参加者のみなさんの姿勢があるからではないかと感じました。2 日間のプログラムはあっという間で、お薦めいただいた

「PAS セルフケアセラピー」と「精神分析的システムズ心理療法」を手元に置いて、時には直接書き込んだりしながら、集中して取り組みました。また、オンラインということもあり、講師の先生や参加者のみなさんと直接のやりとりがしやすいという印象を受けました。

トレーニングを受けたあとからは支援者としての姿勢が変化し始めたと感じています。今後もこのトレーニングを継続することで、介入の入り口を察知し、患者さんが「やってみよう」と踏み出すお手伝いができるような、そんな実践家になりたいと考えています。



2020 年度は、COVID-19 感染拡大により対面開催からオンライン開催への移行など、新たな形での開催となりました。その中で、多くの皆様にご参加いただき、2020 年のトレーニング全 4 回を無事に終了することができました。ご支援いただき、感謝申し上げます。

2021 年のトレーニングは、2021 年 4 月 3 日（土）、4 日（日）より始まります。

患者・家族への看護の重要な役割・機能であるセルフケア支援に関心のある方、実践能力を高めたいと考えていらっしゃる方、一緒に学んでみませんか。初めての方、一度参加された方のご参加もお待ちしています。



学会からのご案内（学会事務局）

◆2021年PAS-SCT 看護学会主催トレーニング 第1回

本学会トレーニングは、コロナ禍で十分な時間がない中、短い時間で患者・スタッフの不安と恐怖に焦点をあて、セルフケアを促進する最新セルフケアプログラムおよびケア困難患者¹⁾へのPASセルフケアセラピー（PAS-SCT）の介入技法を学びます。技法は、繰り返し練習しながら修得しますので、繰り返しのご参加を推奨いたします。（困難患者¹⁾：行動化・反復される自傷行為・依存や訴えが多い・長期入院・入院の繰り返し・隔離拘束がとれない・衝動性が高いと認識される患者）

テーマ：最新セルフケアプログラムの展開

日時：2021年4月3日（土）11:00～18:30、4月4日（日）10:00～16:30

開催方法：Web開催（リアルタイムオンライン）

参加費：会員13,000円、非会員15,000円（2日間の参加費です）

◆PAS-SCT 看護学会 第4回大会

大会長：松枝美智子（星槎大学大学院教育学研究科教授）

大会テーマ：高度実践看護の未来を拓く—看護介入技法の発展に向けての課題—

日時：2021年9月5日（日） 10:00～17:30

開催方法：Web開催（リアルタイムオンライン）

参加費：会員6,000円、非会員7,000円

演題募集締め切り：2021年5月14日（金）17:00

事前参加登録期間：2021年3月1日（月）～6月30日（水）12:00

*ご参加には事前参加登録が必要です。

*演題登録および事前参加登録は、大会ホームページよりお申し込みください。

お問い合わせ：第4回大会事務局

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1 四天王寺大学看護学部内

E-mail：4ht_annual@passctnursingconference.com

大会ホームページ <https://www.passctnursingconference.com/>



◆申し込み先：PAS-SCT 看護学会事務局

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1

四天王寺大学看護学部内

TEL：072-959-2436 E-mail：passct_office@passct.com

事務局長 川田陽子(四天王寺大学) 事務局長補佐 宮崎志保(四天王寺大学)

事務局 石飛マリコ(日本赤十字九州国際大学)，塩田花奈恵(元・榊原記念病院)

橋野明香(広島大学)，松岡高嗣(桜が丘病院)